

# 首相、米発表重ねて否定

## 民主両院 慎重派は訂正要求 懇談会

民主党は24日夕、環太平洋連携協定（TPP）交渉参加問題をテーマに、憲政記念館で両院議員懇談会を開いた。野田佳彦首相が出席し、交渉参加方針を決めた経緯を説明。12日の日米首脳会谈で首相が「全ての物品サービスを貿易自由化交渉のテーブルに乗せる」と発言したとする米側の

発表を重ねて否定した。慎重派は納得せず、訂正を迫るよう求める声が上がった。

日米首脳会谈での自らの発言については、①交渉参加に向けて関係国との協議に入る②昨年11月

に閣議決定した「包括的経済連携に関する基本方針」に基づいて高いレベルの経済連携を目指す

## 評価と不満交錯

の2点だったと説明。この後、非公開で行われた質疑でも、米側の発表内容について「絶対に言っていない」と明言した。これに対し複数の議員から「文書として残っている。きちっと訂正を求めなきゃだ」などの意見が出された。慎重派は、枝野幸男経済産業相がアジア太平洋経済協力会議（APEC）閣僚会議に

交渉参加を明確にした資料を持参していたことも追及。枝野氏は「いろいろな可能性を考え、資料を準備した」と釈明した。慎重派の山田正彦農林水産相は懇談会後に記者会見し、首相の説明について「大変不満だ」と指摘。「（米政府の）ホームページの訂正、削除を引き続き求める」と述べた。

「ならない」と述べた。今野東氏（参院比例）も「一つ一つ、誠意ある説明だった」としつつ、「これでTPPに納得とはいかない。これからも党内議論を続けるべきだ」と指摘した。石原洋三郎氏（衆院福島1区）は「最優先するべきは被災地の復旧復興だ」との立場。「もっと国民的議論を深めるべきだ」と話した。委員会審議のため途中出席となった斎藤恭紀氏（衆院宮城2区）は「言いたいことがあったので残念だ。もう一度でも二度でも機会が欲しい」と語った。

## 東北の議員

は野田佳彦首相らの経過説明を好意的に受け止めた。ただ、慎重派が多いだけに納得はしかねる様子で、引き続き党内議論を充実させるよう求める声相次いだ。

誠実に語ってもらった。今日で終わりにはな

た。慎重派の急先鋒（せんぱう）の一人、石山敬貴氏（衆院宮城4区）は